

研究課題	ICT を活用した働き方改革の推進
副題	～教師の意識改革と多忙化の解消に向けて～
キーワード	働き方改革 校務の情報化 多忙化解消 教育の質の向上 ペーパーレス化
学校/団体名	岡崎市立竜谷小学校 研究推進部
所在地	〒444-3524 愛知県岡崎市竜泉寺町字松本34-4
ホームページ	<a href="http://cms.oklab.ed.jp/el/ryugai/">http://cms.oklab.ed.jp/el/ryugai/</a>

## 1. 研究の背景

### (1) 学校現場の今日的課題

- ・いじめや不登校、特別な配慮を必要とする子供への対応など、社会の急速な変化に伴い、課題が複雑化・多様化している。
- ・学習指導要領に則した新しい時代に対応した教育への対応など、学校改革や授業改善等、学校教育の質的向上が求められている。
- ・保護者対応や地域連携、マネジメントや教員の資質向上研修など、学校の役割の拡大による多忙化が加速している。

### (2) 本校のこれまでの成果と課題

本年度は、本研究課題に取り組んで二年目。一年次の成果と課題は、以下の通りである。

- <これまでの成果>
- ・モバイル端末（LTE版）の活用は、学校という場所に縛られない、新たな教材研究のスタイルを確立できた。
  - ・連絡手段や打ち合わせの電子化によって、子供と向き合う時間や、校務処理の時間を生み出すことができた。
  - ・テレワークを実現させることで、学校で済ませる校務処理と、校外や自宅で行う校務処理の切り分けが見られた。
- <見えてきた課題>
- ・拡大する学校の役割、求められる多様な教育、教師の情熱からの、看過できない勤務実態。責任感や使命感からの意識改革が不十分だった。
  - ・時間を問わず保護者が寄せる教師への期待に応えざるを得ない現実がある。保護者の理解を得るのが不十分だった。

※本研究の成果を確認するための抽出職員の状況

○抽出職員A（20代、女性、近日中に結婚を予定）

教育への情熱から過剰に時間をかけ過ぎてしまう教師である。ライフワークバランスに対する意識を向上させる必要がある。

○抽出職員B（30代、男性、遠距離勤務）

保護者が寄せる教師への期待に時間を問わず応える教師である。保護者の理解を得られるようにし、精神的な負担を軽減する必要がある。

○抽出職員C（50代、女性、本年度末で退職予定）

ICTの扱いが苦手なため手作業で時間をかけて校務をこなす教師である。便利さを実感させることで、積極的にICTを活用できるようにする必要がある。

## 2. 研究の目的

- ・校務の情報化を進めることで教員の多忙化を解消し、これまで以上に子供たちと向き合う時間を確保する。
- ・ICT を有効に活用することで、教育の質を維持したまま、看過できない教員の勤務実態を改善する。
- ・教員がライフワークバランスに対する意識を高め、健康とやりがいをもって能力を十分に発揮できるようにする。

### ※研究の目的に対する手だて

- グループウェアの機能を十分に活用し、情報の共有方法を工夫していくことで、電子ファイルのデータベース化を一層推し進める。
  - ・会議のペーパーレス化により印刷等の準備にかかる時間を削減
  - ・提案資料や伺いの決裁を電子ワークフロー化
- 教職員の働き方改革の推進について保護者へ情報を積極的に伝えるとともに、ICT を活用して保護者との連携を一層推し進める取組を同時に行い、理解が得られるようにする。
  - ・学校が保護者向けに行うサービスの電子化
  - ・保護者の声や要望を受け止めるメール窓口や電子掲示板の開設
- 教職員の働き方に対する意識改革を進めるために、勤務時間に対する達成目標や業務削減に対する取組目標について検討し合う場を設け、職員同士で共通理解を図っていく。
  - ・職員室の校務用 PC のオート電源 OFF とネット遮断
  - ・教員の使命感とライフワークバランスの整合性について意識を高める研修会の実施

### ※成果を判断するための目標

- 情報共有の充実→【目標】諸会議、打ち合わせ、決裁時間を、前年度より 3 割短縮。
- 教育の質の向上と保護者の理解→【目標】学校評価アンケートの下降評価無し。
- 勤務時間外在校時間→【目標】抽出対象職員の勤務時間外在校時間を 5 0 時間以内。
- 教職員の意識改革→【目標】抽出対象職員の多忙化解消と使命感のバランス意識向上。
- 教職員の健康状態→【目標】抽出対象職員のストレスチェック分析結果が前年度より良好。

## 3. 研究の経過

時期	研究の内容等
4 月	○研究推進企画会・研究推進委員会（校内研究の組織づくり）
5 月	○研究推進委員会（研究の目的と今度の流れについての共通理解）
6 月	○環境整備のための業者及び教育委員会との打ち合わせ等 ○テレワーク利用研修（人事異動により赴任した教職員対象） <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅からグループウェアへのアクセス方法</li> <li>・自宅から教育ネットワーク上のセンターサーバへのアクセス方法</li> <li>・情報セキュリティ研修（セキュリティポリシーの確認）</li> </ul>
7 月	○ストレスチェック実施（岡崎市指定：全職員対象）
8 月	○タブレット端末（LTE 版）調達手配（借用）と ICT 環境追加整備（AppleTV） ○職員研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末（LTE）活用研修（Apple iPad）</li> </ul> ○学校保健ゼミナール（東京開催）研修参加（健康管理と業務改善）

9月	○研究推進企画会・研究推進委員会 ○タブレット PC (LTE 版) LTE 回線契約 ○ストレスと姿勢・ストレッチとストレス解消法等についての研修会 講師招聘 (中京大学名誉教授 湯浅景元先生)
10月	○職員研修 ・電子起案及び電子決裁の利用研修 (サイボウズ Garoon) ・電子データの分類と保存場所等の統一事項確認 ○ストレスチェック結果の分析と対応計画 (市教委の助言) ○スタイラスペン (iPad 用) の操作検証
11月	○ICT 環境追加整備 (無線 LAN アクセスポイントの設置) ○職員会議のペーパーレス化の実施研修 ・電子データの提出と配付について ・閲覧方法と会議の進め方について
12月	○研究推進企画会・研究推進委員会 ○教育委員会との連絡調整 ・リモートデスクトップによるテレワーク設定追加 ・セキュリティポリシーの確認事項 ○テレワーク (リモートデスクトップ等) 利用研修 ・自宅のパソコンの設定と利用方法の確認
1月	○企画会、研究推進委員会 ・電子データの保存と管理、教育計画の電子化について
2月	○ICT 授業活用研修 ・講師招聘: 河合泰宏 (岡崎市学習情報指導員、山中小学校)
3月	○研究推進委員会 (研究のまとめについて)

#### 4. 代表的な実践

##### (1) タブレット PC (LTE 版) の配付 (9月～)

昨年度からさらに広げ、全教職員 (養護教諭、事務職員、校務員、教員補助者等を含む) に、一人1台ずつタブレット端末 (LTE 版) を配付した。LTE を利用し、全職員が、校内だけでなく、校外からも場所を問わず (自宅も含めて) ネット上の情報資産にアクセスできるようにした。

##### (2) 教材研究のツールとして (9月～)

利用価値が高く、職員からの要望も多かったツールである。情報や提示したい資料などの収集が、場所に限定されず、どこでも手軽にできる。全教室に無線 LAN 及び AppleTV を設置。ネット上のコンテンツや事前に収集した資料を、瞬時に教室の電子黒板に放映できるようになった。



##### (3) 職員同士の情報交流のツールとして (9月～)

職員同士の情報の伝達に、タブレット端末のメッセージやメール機能が活用できるようになった。必要な情報や資料、文書等も、タブレット端末に配信することで、各自の都合のいい時間や場所で情報を得ることができた。職員と共有したい情報やデータも、手間なく配信できた。

##### (4) 業務改善とストレス発散に関わる研修 (8月、9月)

業務に改善及び職員の健康管理を充実させるために、養護教諭が東京で開催されたセミナー

(学校保健ゼミナール)に参加した。保健室の業務を見直すとともに、職員へ情報伝達を行った。教職員の働き方に特化して、仕事と生活のバランスに対する意識改革や業務改善の内容で指導が得られる講師を探したものの、適した講師を見つけることができなかった。(講師を派遣する企業は存在するが、高額であったために断念。)そこで、中京大学名誉教授の湯浅景元先生を招聘し、「姿勢とストレスの関係」や「ストレスを発散するストレッチ方法」等について、子供たちと教職員が一緒になって指導をいただく機会を設けた。



(5) 電子起案と職員会議のペーパーレス化 (10月～)

文書の印刷や資料綴じの時間を軽減するために、行事等の起案をグループウェアの機能を使って巡回し、電子決裁により承認する方法を導入した。それと合わ

□50	電子起案	ほけんだより10月号について	完了	原田 安理沙	竜谷小学校	2019年10月11日(金)
□49	電子起案	部活動年間計画について	完了	宇野 佑実	竜谷小学校	2019年10月11日(金)
□48	電子起案	文集「りゅうがい」職員会資料	却下	松原 まやの	竜谷小学校	2019年10月11日(金)
□47	電子起案	就学時健診 校医案内文について	完了	原田 安理沙	竜谷小学校	2019年10月09日(水)
□46	電子起案	就学時健康診断 保護者宛て文書について	取消	原田 安理沙	竜谷小学校	2019年10月08日(火)
□45	電子起案	ふれあいランチについて	進行中	宇野 佑実	竜谷小学校	2019年10月07日(月)
□44	電子起案	長期欠席状況調査について	完了	原田 安理沙	竜谷小学校	2019年10月07日(月)
□43	電子起案	学級通信について	完了	宇野 佑実	竜谷小学校	2019年10月07日(月)
□42	電子起案	就学時健康診断のお知らせについて	完了	原田 安理沙	竜谷小学校	2019年10月07日(月)
□41	電子起案	修学旅行説明会	完了	松原 まやの	竜谷小学校	2019年10月03日(木)
□40	電子起案	修学旅行概要	完了	松原 まやの	竜谷小学校	2019年10月02日(水)
□39	電子起案	サラダで元気 調理実習	取消	武谷 依里香	竜谷小学校	2019年10月02日(水)

せて、職員会議のペーパーレス化を図った。これまでの職員会議は、膨大な資料を、職員の人数分印刷して綴じ合わせ、それを資料としていた。そうした準備の負担を軽減するために、校内のファイルサーバに pdf ファイルとして保存し、その電子ファイルにそれぞれがアクセスし閲覧することで、会議を進行した。

それと同時に、電子ファイルの保存場所や整理の仕方について確認し合い、情報資産が確実に蓄積され、次年度へと引き継がれるように徹底した。

(6) 在宅ワークの充実 (12月～)

岡崎市教育委員会との連携のもと、昨年度からの「在宅ワーク」についてシステムを変更した。これまで、自宅からサーバにアクセスするために、専用のツールを利用していたため、学校の使い勝手と異なり、新たな操作手順を覚える必要があった。それを、セキュリティを確保した状態でリモートデスクトップ機能を実現させることで、自宅に居ながら学校とまったく同じ操作環境を作り出し、機密情報も含めて、すべての情報資産にアクセスできるようにした。

特に、持ち帰りにより仕事を進めることが、確かに負担軽減と結びつくよう配慮し、自宅からサーバへのアクセスログを確認することで、出勤扱いとして認めることも試みた。

(7) 写真のネット販売とメッセージ応答電話 (5月、7月～)

記録写真の保護者への販売について、掲示、注文、集金、配付の手順を、これまでは、全て担任が行っていた。それを、写真業者の協力を得ることで、ネット注文及びネット決済に変更し、写真を閲覧して注文を取る時間や、集金を整理する負担を大きく軽減した。

また、教員が勤務時間外の電話対応に追われることも多いため、早朝と夜については、緊急時以外の電話対応を留守番機能付電話に変更した。事前に保護者等に取組の主旨を伝え、十分に理解を得たうえで、自動メッセージ応答できるようにした。

## 5. 研究の成果

### (1) 抽出職員の勤務時間外在校時間の変化とLTE パケット使用通信量

○抽出職員A（20代、女性、結婚予定） 教育への情熱から過剰に仕事に時間をかける教師  
 <勤務時間外在校時間の前年度比>

9月	10月	11月	12月	1月	2月
0.65	0.73	0.67	0.77	★0.62	0.92

※前年度を1としたときの割合（★は50時間以内を達成）

<パケット使用通信量> 全職員（20名）の11.2%を使用（全職員の3番目に多い使用量）

<考察> 昨年度の実践では、勤務時間外在校時間はわずかに減少傾向にあったものの、顕著な差は見られなかった。しかし、本年度は、実践に取り組んだ9月以降、大きく在校時間は減少し、特に1月については目標の50時間以内を達成することができた。

これまで、教材研究や授業準備に学校で時間をかけていたが、タブレット端末を使用することで、自宅で教材研究を進めることが多くなったとアンケートに回答している。

また、1月は、リモートデスクトップによる在宅ワークが可能となったことで、帰宅時間が早くなり、都合のいい時間に校務処理を行うことができたようである。学校という場所に拘束されることなく、自分のペースで仕事を進めることができるようになった。

○抽出職員B（30代、男性、遠距離勤務） 保護者が寄せる期待に時間を問わず応える教師  
 <勤務時間外在校時間の前年度比>

9月	10月	11月	12月	1月	2月
0.86	0.63	0.77	0.89	0.85	1.14

※前年度を1としたときの割合（★は50時間以内を達成）

<パケット使用通信量> 全職員（20名）の2.6%を使用（全職員の9番目に多い使用量）

<考察> 昨年度は、勤務時間外の保護者からの電話対応に追われることが多かったが、留守番電話機能付電話の自動メッセージ応答を利用し、教職員が電話対応できる時間を限定することで、負担を軽減することができた。その成果が、勤務時間外在校時間に表れた。

タブレット端末については、必要に応じて活用していたものの、特に積極的に活用している様子はなかった。また、在宅ワークもほとんど利用することが無かった。

学校評価アンケートの結果から、抽出職員Bの保護者からの信頼度は厚く、電話対応を区切っても、十分に教育の質を維持できているものと考えられる。

○抽出職員C（50代、女性、本年度末退職予定） ICTが苦手な手作業で校務をこなす教師  
 <勤務時間外在校時間の前年度比>

9月	10月	11月	12月	1月	2月
1.16	0.74	★0.53	★0.73	★0.75	★0.55

※前年度を1としたときの割合（★は50時間以内を達成）

<パケット使用通信量> 全職員(20名)の2.6%を使用(全職員の15番目に多い使用量)  
 <考察> タブレット端末はほとんど使用せず、在宅ワークも一度も利用しなかった。それでも、2学期以降、勤務時間外在校時間が昨年度よりも下回った(特に、11月以降は、勤務時間外在校時間50時間以内を達成)のは、会議の時間の短縮や、勤務時間や業務削減に対する取組目標について検討し合う場の設定、また、退職を前にして、働き方への意識に対する変化が表れたものと、アンケートに回答している。

ICTの働き方に対する効果という点では、個に応じて大きな格差があることがわかった。

(2) 電子起案と職員会議のペーパーレス化による効果

<職員会議の時間縮減率>

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0.08	-0.17	★0.31	★0.35	★0.43	-0.10	★0.44

※前年度を1としたときの割合(★は3割の時間短縮を達成)

<考察> 電子起案と電子決裁による文書データをもとに職員会議の資料をまとめることで、資料準備の負担を軽減でき、会議前の早い段階で提案資料を公開できた。事前に資料に目を通しておくことが、職員会議の時間短縮に結び付いたものと考えられる。

しかし、資料への書き込みや、個人で資料を綴る習慣からスムーズにペーパーレス化を移行させるためには、タブレット端末と、使いやすいスタイラスペンの組み合わせが必須であり、ハードウェアの不足から、最終的にプリントアウトしてしまう職員が多かった。

6. 目標に対する評価と今後の課題

- 会議の時間を前年度より3割短縮。 → 職員会議2回廃止。4回の会議は3割短縮を達成。
- 学校評価アンケート結果が前年度を上回る評価。 → 保護者、児童ともに、評価は上昇。
- 勤務時間外在校時間を50時間以内。 → 抽出職員1名の50時間以内を達成。
- 多忙解消と使命感のバランス意識向上。 → アンケートから、抽出職員1名の多忙感解消。
- ストレス分析結果が前年度より良好。 → 抽出職員3名のストレス分析結果は向上。

この二年間の取組で、本校の教職員の勤務時間外在校時間は大きく変化し、80時間を超える者はいなくなった。しかし、それがICT活用の効果とは必ずしも言えず、個の特性によって格差があることが課題である。むしろ、全職員で業務改善に取り組もうとする姿が、各自の働き方を見直そうとする意識改革を引き起こしているものと考えられる。

在宅ワークの実現は、仕事を持ち帰ることを推進するものとは違い、個々の生活スタイルに合わせて、安心して仕事を進めることができる環境を提供するものである。しかし、長期休業中など、在宅ワークで仕事をした時間を勤務として扱うことができるよう勧めたが、申請した職員は一人もいなかった。様々な働き方があることへの理解は、まだまだ不十分である。

7. おわりに

多様化する価値観の中で教育課題は複雑化し、学校に求められている役割は大きい。教育の高い質を維持しつつも、私たち自身が心身ともに健康を維持し、元気に明るく教育活動を進めていけるよう、ICTを一つの業務改善の手段として、さらに働き方改革を進めていきたい。

8. 参考文献 なし